令和５年度　第３回三木市部活動の在り方検討会議　議事録（要旨）

１　日　時　令和５年１１月２日（木）１９：００～２０：３０

２　場　所　サンライフ三木　多目的ホール

３　出席者　委　員

会　長　森田　啓之　兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授

副会長　坂田　直裕　中体連代表校長

岸本　博介　スポーツ協会理事長

井上　薫　　(公財)スポーツ振興基金理事

石田　親吾　三木市吹奏楽連盟理事

前田　義典　小・特別支援学校校長会代表

生田　淳仁　中学校校長会代表

沖　　徹也　運動部顧問代表

大橋　純子　文化部顧問代表

藤枝　広起　三木市連合 PTA 理事

事務局

鍋島健一教育振興部長、森田眞規教育総務課長

手島三知子文化・スポーツ課長、田中智美学校教育課長

山口正明学校教育課主幹、村田政宜文化・スポーツ課主事

杉田博久学校教育課学校指導係長

４　協議事項

（１）意見書の柱について

※資料について事務局より説明

【各委員からの意見】

（会　長）

・柱について検討する前に今の部活動をめぐって、現状維持が難しいみたいなところを何らかの形で示すことになるのか。

（事務局）

→すでに合同チームが増えてきているということ。教員が部活動指導の専門性を持って指導できない場合も多いということ。そういった点を改善していくことが、地域移行の目的となっているので、それについてはまとめて、示していく必要があると考えている。

（委　員）

→書面として背景を最初に示して、だからこうするといった形のほうがよい。

（会　長）
・柱の内容としては今回の国の提言をきっかけに今ある部活動をそのままシフトするというわけではなく、生涯学習の流れの中で行っていくという趣旨だと捉えられる。

(2) 今後解決が必要な主な課題について

※資料について事務局より説明

【各委員からの意見】

方向性について

（委　員）
・学校部活動は平日も含めてゆくゆくはなくしていくという考え方でよいのか。

（会　長）
→基本的には国はその方向だと思う。

（委　員）
・国のガイドラインの中に「地域クラブ活動と学校部活動の間で活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解を図る。」という表現もある。残すという考え方もあるのかとも思う。

（会　長）
→基本的に今、国から上がっているのは移行期をどうするかのガイドラインである。そのため学校部活動についても書かないといけない。新しい動きとして地域クラブ活動を書いてあり、部活動と併存するであろうと考え、急になくすのではなく両方を生かしつつ、うまく繋いでいくという形で書かれてあると思われる。しかし、意向としては学校単位でするのは無理であり、さらに働き方改革の観点からして、基本的には部活動がなくなったとしても、中学校の教員の残業時間は結構な時間数であり、部活動が残るとしても勤務時間内で何ができるのか、クラブ的なものをどう保障できるのかといった議論がされてきた。例えば、昔は週に１回だけカリキュラムの中でクラブ活動といったものを行ってきた。しかし、現実的には部活動で代替としてやっていないところが全国的にもたくさんある。今のカリキュラムの状況から考えて、これを復活させることはない。もし、クラブ的な活動がよいと考え、学校が教育として可能な限り担保してあげられるのであれば、それは自治体と学校の判断で行うであろうと思う。戦後最初の頃に戻るのか、生徒の自主的自発的な活動を教員がアドバイスしながら、一緒に活動するようなことを学校として行い、それ以外のことは全て学校外のところで多種多様なことを設定して行っていく。重要なことである。

（会　長）
・国のガイドラインは移行が終わったら、もしかしたら部活動という言葉はなくす。スポーツ庁が地域クラブの適正なガイドラインを出すのかどうかわからないけど、そのようなことになるのかもしれない。

（委　員）
・今後、三木市がめざしていく主体性・協働性・創造力について、今まで先生が教えてくださるとそのまま受け入れてしまう生徒は多いような気はする。これをきっかけに子どもたちが中心となって自分たちで考えるような機会が増えたり、いろいろな人の見守りみたいな形になるのかわからないのだが、子どもたちがもっと自分たちで話し合ったり、動画で自分で技術とか調べるような世代になってきているので、バックアッ

プしていくような体制が入れられればいいのではないかと思う。

（会　長）

・基本的には日本人は教えたがりで、やりだしたら自分でコントロールもマネージメントもしたい。いつの間にかそっちの方に子どもが行ってしまうことがある。一方では主体的というが、それはどういうふうに育まれているのか。そこも重要な部分で、地域クラブの活動に関わってくださる方に一番意識していただいて、今の部活動の指導みたいなものではなく、ちょっと違うスタンスで気楽に教えるということはもちろん部分的にはあることを伝えて考えていく必要があると思う。

人材確保について

（委　員）

・可能かどうかは別にして、地域クラブの活動に教員が入っていく形になるのであれば、学校の部活動というもの自体を残す意味はないと思う。そうでないと、教員がどうしたらよいか分からなくなってしまう。何年までにと決めて一気に廃止としてしまうほうが、教員が次のことを考えられると思う。

（委　員）

・まず、土曜日曜からやっていくのであれば、教員はどのように動けばよいのか、わからないと思う。

（委　員）

・まずは土日からとあるが、月曜日から金曜日までは中学校で部活動を指導されて、土日には同じ種目のクラブの指導をされていく。その後徐々に月曜日から金曜日までの部活動も失くしていく。そうなった時、教員は平日に今まで中学校で行っていたようなことを地域クラブでやろうとか、そういったことを考えたりするのか。

（委　員）

→アンケートなどを取ってみないとわからないが、指導したいと思う教員は絶対いると思う。人材が必要だったら、今ある部活動を廃止にしないとその教員の手が空かない。結局教員がクラブチームを立ち上げたくても、自分の学校の部活動の指導をしないといけないので、部活動がしがらみになって、クラブを立ち上げることができないということが絶対に起こってくるのではないか。三木市でどれだけの教員が部活動を指導したい、クラブチームを立ち上げて指導したい、どんな種目を指導したい、という思いを持っているのかをある程度把握しないと前に進まないのではないかなとも思う。今、「地域クラブで」となっているが、おそらく平日、部活動の時間帯に指導する指導者は、確保できないと思うので、教員の手は絶対に借りないといけない。これは必須であると思う。それを生かすのなら、今ある部活動をストップするほうが良い。いろいろな課題が出てくると思うので、簡単に言ってできることではないと思うが、それは絶対にしないと教員がクラブチームを立ち上げる方向には絶対に動かないので先に進まないと思う。

（会　長）

・種目によっては、複数の教員が集まって、市の子どもたちを学校関係なく集めて活動するような動きをしようとしている話もある。しかし、それをやっていこうと思うと、今度は今ある残りの部活動は旧体制のままとなる。どのような形であっても両方が併存することは間違いない。全種目一斉に変えることは絶対無理なので、ここで具体的

に考えていく必要がある。三木市でどのあたりから仕掛けていって新たな機会補償を作っていくのかというのは本当に難しいところだと思う。今、他市で多い事例は平日は部活動を行い、休日だけはとりあえず教員はノータッチにして行きましょうという活動方法である。また、今顧問をしている教員はそもそも専門的な指導はできないということで部活動指導員を配置しているところもある。

（副会長）

・三木市でも特定の部活で顧問がいて指導員がいるという形はある。ただ、部活動指導員も実は教員 OB が入っているという事例がほとんどだと思われる。

（会　長）

・部活動指導員が入っている種目は休日は完全に任せる。制度的に土日の指導について教員は完全にタッチしない部活動としてやっている。でもこの中途半端な状態はどこかで一気に変えなければいけない。そこの決断が難しく、とりあえず今はモデル事業をやっているところが多い。覚悟をどの段階で決めるか。それが一番教育委員会も文化・スポーツ課も悩まれているところだろうが、そのためにはしっかりとした情報収集と三木市の現状を踏まえて考えていく必要がある。でも、先走ってしまわれると困るし、現実的に教員にお世話にならないといけない種目は多くあるので教員との対話が必要である。他市町の例では、そこを無視して教員が学校部活動は今年からやらないと言い切って、自分でクラブチームを立ち上げたということがある。規定にのっとってされているし、校長も部活動顧問はお願いしてやってもらっているので止められず困っている学校もある。でも、保護者としては正直そちらの方がありがたいと応援されている方もいる。お互いの思いをどうすり合わせるかというのが人間の欲とか業とか、いろいろなものがあるというのが正直な感想である。

（委　員）

・地域クラブ活動が始まる時のイメージがわかない。文化部では土日をしていない部活動もあるので今と変わらないというイメージもある。土日にしてくださる方がおられるならありがたいが。美術系とか文化系は別の話なのか。習い事みたいな感じになるのか。それはまたイコールではないと思うし、平日サッカーをする生徒がいて土日に全然違う活動をする生徒も出てくることも考えられる。人材確保が大きな課題であるので、今いろいろな活動をされたい方がおられると聞くことがあるので、そういったことも早めに聞き取りしていき、確保していく方がよいと思っている。

総轄する組織について

（会　長）

・三木市の地域クラブ活動というのが、どんなものなのかがわからないので、意見も出しにくいかと思うが、地域のクラブの場で子どもたちが活動するようにシフトしていく。そういったイメージでこの文言が出ている。その際に、運営母体のようなものをどういう形で、例えば地域の既存のものに部分的に入っていくとかを含めて、中学生を受け入れていくことも出てくると思うが、それがバラバラではなくて、何らかのコントロールを利かせながら先ほどの理念のところから逸脱しないような統括する組織が必要で一番そこが重要なポイントだと個人的には思う。

（委　員）

・三木市は広いので、どのような形の組織を作ればよいのかが一番気になっている。学

校を離れて社会で今ある一般のものをリメイクするのなら公民館が地域ごとにあってできるが、学校の部活動を中心に考えていった場合、それを地域クラブに移行するのは考えたがイメージができない。今までの学校区がある、地域は地域であるからそれを何とか一緒にしたほうがいいのではという思いはある。しかし、保護者の方が土日とかの移動を受益者が主体となって動くという場合、例えば吉川でバレーボールをやっているので、別所から吉川まで行かないといけない。果たしてそれが可能かどうかを考えないといけないし、地域クラブといういろいろなことを考えた場合、基本線を持っておかないといけないと思うし、競技ごとで分かれていくのか、地域ごとで分かれていくのか、それをはっきりと決めていかないと、肝心の統括する組織もできないし、その辺りが整理できない。

（会　長）

・今回の段階で、意見書にそこを結論的には書けないかもしれないが、地域クラブとはどんなものなのかをいくつか挙げていくしかないと思う。例えばこの種目については市内を３つくらいに分けて、この種目は市内１つで行うとか、あるいは種目によってはスポーツ少年団に入るといったこともあるのかもしれない。どの種目がそうなのかということは現段階では言えない。中学校の文化部では土日の活動はないけど、公民館事業でやっている講座などを積極的に紹介して、中学生がスムーズに関われるような体制を作るとか、このイメージを結論は出ないにしろ、入れたほうがよいと思う。

（会　長）

・協議会というのはあまり機能しないというイメージがある。みんなが集まってその時にしか考えない組織になる。協議会ではなく正式に統括する組織を作ったり、委託したりする覚悟がいるという気がする。それくらいの重みがあるし、仕事が必要になってくる部署だろうと思う。地域クラブ活動というのは活動の場であり、また、（仮）の団体ではなく、事務局、コーディネーターが指導員の登録・派遣、地域クラブの確保、参加費等への支援や団体に対する助成等のこの３つをやるのだと思う。そのような図にした方がよいのかなと思う。

学校における部活動の考え方について

（会　長）

・部活動は大好きなことをして、競技やコンクールをめざすといった側面もあるが、一方では部活動が居場所になって、勝った負けた以上に他学年でいろいろなカリキュラムと違う形の中で、やっていくことの意味とか意義を今後どう考えるのかというところではないかと思う。

（会　長）

・学校部活動の縮小とあるが、現実的には今のような部活動はなくなっていくとして、学校教育としてどう考えるのか、この表現でよいかどうか、考えていく必要がある。学校の教員としては、中学校で部活動をやることによって、体力テストの数値などはキープされていることは事実である。もちろん、文化部もあるが子どもの体力や動きをどのようにして学校教育として担保するのかということも踏まえた学校の体育スポーツ活動の在り方というのは考えないといけない。学校教育の視点として、単純に社会教育とか生涯教育に移すその仕組みだけを考えるのではなく、学校教育としてその流れの中ででも継続してやるべきことは何なのか、文化活動も同じではあるが一定の意味があると考えると、この点について検討していく必要がある。

（会　長）

・一気に廃止というほうが教員は楽かもしれない。そう思う教員もいると思う。一方では、ずっと教員が学校の教育として、生活指導も含めて学校生活を充実させるために、クラブ的なものが必要だといろいろと議論をしてきたことを考えると、一切タッチしないというのもどうかとも思う。いろいろな選択肢があるので、もう一度この機会に時間をかけて議論をする必要がある。今のような土日と連結して、試合と連結してする部活動はもう難しいと思われる。希望する教員は個人的にクラブに入っていただいて指導していただくシステムを作る。あとは移行した後に学校の部活動というのはどのように考えるのか、すぐに答えは出なくとも何らかの形で考えていく必要がある。学校部活動と聞けば今の部活動をイメージしてしまうが、表現が難しいところである。

（副会長）

・学校教育としてどこまで担保していくのか。６ページの参考資料の中で現状部活動は「学校教育の一環として、教育課程との関連を図られるよう留意すること」という記述はあるわけだが、今の議論の中でいくと、ある意味部活動を学校教育という枠組みから外して、社会教育や生涯教育という視点にもっていこうとしている。その中で教員がどう動くのか、学校教育がどう担保していくのか、学校が教育の一部として行うべきなのかどうなのか、というところも考えていかなければならない。課題ではあるが、学校教育としてしなければいけないのか、教員がそのために動かなければいけないのか、そうではないのか、きちんと考え方の整理をしていかなければならない。

（会　長）

・この点については継続的に学校で検討をしていくか、あるいは三木市の方で考えていただければよいかと思う。

(3) 10 年後の持続可能な文化・スポーツ活動のイメージについて

※資料について事務局より説明

【各委員からの意見】

移行のタイミングについて

（委　員）

・教員から言えば、休日から段階的にというのはありえないと思う。やるのであれば、ここから地域に預けると期限を決めて、そこまでに出来ること、課題を解決していくことがいいのではと思う。現状の調査もしないといけないし、既存の各種目協会とも打合せをしないといけないし、それをしようと思うと期限が決まっていて、そこに向けていろいろな課題を解決していかないといつまで経っても話が進まない。

（会　長）

・原案としては徐々に移行していくスタイルのスケジュール案の方向であるが、今の学校部活動をチェンジする方向と決めて動くという選択をしている県下の市町もある。どちらが良いか悪いかというわけではない。仮に何年か後ろを決めて、そこに向けていろいろな部署でやれることを可能な限りやっていくことについてどう思うか。

（委　員）

・国や県は移行期として令和７年までを推進期間としている。それに沿っていくのであれば、その辺りを期限にして進めていくのはどうか。その間に各種団体、協会等に実態や意見を聞く、教員の方に意見を聞く。やることはたくさんある。

（副会長）

・期限を決めて進めていくという意見が出ているが、おそらく、それまでにモデル的なものが出てくるのではないかと思っている。すでに部活動自体を維持していくことは非常に難しくなっている。例えば、野球やサッカーなど単独の学校の生徒だけで活動するということが難しくなっている。三木市でも市内６校ある内に単独でチームが運営されている学校は本当に少ない。決めた中でも模索してやれる種目もあるのではないか。ひとつのモデルであるが、例えばオール三木として、休日にどこかに生徒を集めて、そこに指導者が出ていき指導する。それに向けて平日でどこかでどのように活動していくのか、それが部活動という枠組みでやるのが１、２年間あったとしても、その間に部活動ではない平日の活動というのがどのようなことができるかを模索していく期間になるのではないか。ただ、それが全ての競技においてできるのかどうかというのは難しい。例えば競技特性や個人種目かチーム種目かにもよる。文化部であれば平日だけ活動しているものもある。それがなくなってしまう時には、地域のほうでどのような活動ができるのだろうということを模索していくという期間も必要になってくる。合同チームという言葉も出てきているが、すでに合同チームとして活動しているところからそういったモデルとなるようなケースが出てきて、そこをヒントに足掛かりにしていければと思う。

（会　長）

・事務局としても、そういう意見があることを認識していただきたい。他市町の事例だが今のシステムだと運動部の場合は夏くらいで上級生が引退し、チームの入れ替わりとなり、１つの節目となる。年度の初めからではなく、例えば来年１年生になる生徒は少なくとも３年間総体が終わるまで今のシステムで行う。終わったところで再来年の１年生のところで方針を出せるようにそれまでにできることを進めていくというところも選択肢の１つとしてある。なんとなく年度でというイメージがあるけれども生徒の実態からしたらそちらの方がよいのではないかという議論もある。

（会　長）

・12月に新しい生徒、保護者に説明する機会がある。その場で必ず何らかのアナウンスをしないといけない。今の段階でそこまでは言えない。少なくともあと１年間の間に期限を決めて、そこに向けての段取りをしていくしかないのではないか。そうすると大人も生徒も保護者も覚悟ができる。すごい作業にはなるが、個人的には一気に廃止としたほうがよいと思う。ある教員から「徐々にと言われてもはっきりとしないことにはその間に一生懸命されている方もテンションが下がる」という意見も聞いたことがある。

活動時間について

（委　員）

・今地域クラブでやっている団体の活動は夜にしている。平日でも夜の活動でやってよいものなのか。大きな壁になってくるかと思う。夜だったら指導者を引き受ける人は

出てくる。三木市内でも三木市外の方が夜に体育館を使用しているということも聞く。地域クラブ活動を活発にするのには夜しかできないということが出てくるのではないか。

（委　員）

・トップレベルで競技をしている生徒、部活でない競技をしている生徒は夜にいろいろな場所で活動している。もちろん、上の大会をめざしている生徒だけではなく、その中にはスポーツを楽しんで参加している生徒もいる。

（委　員）

・平日の地域クラブの活動のイメージがわかなくて、地域クラブとなると社会人が多くなるので、昼間は仕事をしている。完全に移行してしまうと平日の夕方に誰ができるのかという思いがある。その時に教員の OB の方にお願いして指導していただくイメージになる。

（会　長）

・それが可能な部活動もあるかもしれないが、それをしたとしてもそれは学校教育ではなくなる。そういった人材がいたら夕方早めからやっても構わない。ただし、それはたまたま学校という場所でやっているが、部活動ではなく地域の指導者が教えている活動であるという考えになるかと思う。ただし、それが全ての種目でできるのは無理だと思われる。平日の夕方同じ時間にみんなが活動しているというイメージはなく、脇に置いておくほうがよい。

（会　長）

・既存のイメージはすべて壊さないと進めていくことができない。平日にまとまって練習しなくても、個人で練習時間があっても構わない。生徒が何人か集まって練習するというのもよい。期限を決めたほうがというのはその間にいろいろな課題が見えてくるだろうし、実現可能かどうかも、そこに向かって調整していかないと何もわからないと思う。土日からと進めても先送りにしているだけで何も進まない。

（会　長）

・地域に活動の場を移していくときには、今の活動の仕方のイメージを脇に置いて考えていかなければならないことも重要なことだと思う。

学校での部活動の位置づけについて
（事務局） ・最終的に学校教育としての部活動の在り方という点については、どのような形がよいか。学校のことなので学校で判断するのがよいのか、委員として思いがあるのか。部活動が残っていると教員としては次の地域活動に参加しにくいという意見も伺った。一気に廃止としてしまうほうがよいのか。 （委　員） ・切ったほうがよい。そうでないと、教員の服務のことを考えたときに、「兼職兼業願い」が出たら、例えば「４時以降はそっちの仕事に行ってください」と言ってよいのかとなる。それだと「兼職兼業願い」の位置づけがおかしくなってしまうし、勤務時間は学校業務をしてもらって、その後、時間外で兼職兼業願で動いてもらうということになったら、学校に活動が残っていたら、たぶん地域活動をやる人はいないと思う。

（委　員）

・週１回のクラブ活動みたいなものを教育課程の中に入れていくということはまた別の話になるかと思う。生徒たちが継続的に何かする運動や文化活動については、学校の中で教員がかかわってやるということはやめるほうがよい気がする。

（委　員）

・生徒が主体的に考えて、放課後にある生徒が「先生これやりたいんです」と言ったときにクラブ活動や部活動を残すのであれば、「じゃあやってごらん」といった形でしていくことになるのか。

（委　員）

・部活動として残すのであれば、そこに責任が伴うので安全管理をしないといけないのでそこに人を当てる必要がある。かたや、こっちでクラブチームの活動があるから行かないといけない、学校の活動があるから行けないといったことが起こってくる。

（会　長）

・「兼職兼業願い」の条件みたいな部分の整理は絶対に必要になる。何でも認めていくことはできず、本務に影響するような「兼職兼業願い」はダメなので、そういった点についても考えていかないといけない。今回の意見書の中には校内サークル活動とまで書くと議論が十分ではないので、学校として生徒たちの人間関係づくりとか、体力づくりといった点でどこまで関わるべきか、どんな場を新たに作る必要があるのか、それともしないのかも含めて、議論をしていくべき課題だと示すくらいがよいのではないか。それは学校教育の専門家の教員が現状の生徒たちを踏まえながら考えていくテーマかもしれないので。

（副会長）

・「学校教育として」と書いているので、学校教育の枠組みの中ではそこに教育的意義やねらいがどのようなことがあるのかということを求めないといけない。生徒たちが「やりたい」ということを「わかった」と全部受け入れるということは本当は学校教育の在り方ではないと思う。そこでどのような狙いをもって、どのような効果が生徒にあって、どのような力を伸ばしていくのかということを考えていくのが学校教育だと思う。その辺りの整理は議論も含めて必要だと思う。